生徒と保護者のための
週刊 かわら版

感動の体育祭

幕を閉じる

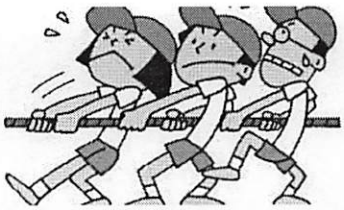
今年の体育祭、若者らしい、清々しい体育祭だった。例年以上に好感のもてる体育祭だった。

天気の心配のいらないフィールドハウスでの体育祭。タイムスケジュール通りの進行。それは、体育祭を成功させようとする全校生徒の意識の高さを物語る。

二人の選手宣誓。とても知的で堂々としていた。

部活動の行進、リレーの盛り上がりは近年の部活動の活躍を見せつけた格好であった。

応援団もそれぞれ工夫をこらし、各団がそれぞれの名誉をかけて演じる姿がとても凛々（りり）しかった。



この感動や成果を次へのステップにできるのではないか。就職試験、受験、資格試験、それぞれの目標を再点検したい。

資格試験情報

○電卓検定
締切　9月20日(火)
○国連英検
締切　9月26日(月)
○全国商業ビジネス文書
締切　10月6日(木)
○危険物取扱い
○秘書検定
○漫画キャラクター検定
近日中に申し込み開始

私学フェア 学校紹介番組

ＭＢＣテレビ「私立中高フェア学校紹介特別番組」が放映されます。本校の放映日程が決まりましたので、お知らせいたします。ぜひ、ご家庭でもご覧ください。
10月9日（日）
11時～11時30分(うち15分間)

進路指導情報

進学ガイダンス
会場：
ジェイドガーデンパレス
（新しい市立病院近く）
日時：
9月23日（金）
大学・短大・専門学校
9月27日(火)
大学・短大のみ
学校と会場間は無料の送迎バスが運行されます。

先見コーナー

9/16(金) ○就職採用試験開始
（16日には45名が、9月中に86名の生徒が受験）
○基礎製図検定（全工）
9/17(土) ○1・2年土曜補習（e・プ・特）
○3年進研模試マーク（～18日）
9/18(日) ○吹奏楽部　長島公演(長島町文化ホール　13:30開場)
9/19(月) ○敬老の日
9//21(水)○**月曜校時**(月曜日の授業時数を確保するために変更)
9/22(木) ○秋分の日
9/23(金) ○原付講習会
（諸事情により原付免許取得が許可されている生徒）
○進学ガイダンス（大学・短大・専門学校）
9/24(土) ○私学振興大会(宝山ホール)
9/25(日) ○県職員採用試験⇒生徒は校内立ち入り禁止
○全商情報処理・TOEIC
9/26(月) ○全校朝会・職員会議
○2年介護実習（～11/4）○1年介護実習（～9/30）
9/27(火) ○2年キャリア教育プログラム（～29日）
○進学ガイダンス（大学・短大）
10/01(土) ○鹿児島県統一摸試（中学生）本校が会場
○土曜補習（e・プ・特）○第二種電気工事士（筆記）
○第12回自専攻科○C
10/02(日) ○吹奏楽部定期演奏会（宝山ホール 18:00開場）
○第一種電気工事士試験

来週は祝日が多く取材と編集が難しいようです。よって休刊とします。次のかわら版14号（通算50号）は9月30日（金）の予定です。

（マルチメディア科三年女子）おばあちゃんとお買い物

スクールカウンセラー

当面のスクールカウンセラーの先生（臨床心理士）の来校日は次の通りです。
ご希望の日の一週間前までに申し込みをしてください。教育相談部で日程調整をいたします。
○9月23日（金）
○10月7日(金)
時間は毎回9時～12時30分
最終受付は11時30分です。

チャレンジ・ボード 情報

○全国高校生読書体験記コンクール
締切　9月30日
○朝井リョウ作品高校生140字コメントコンテスト
締切　10月31日

編集後記

台風が接近しつつあります。この連休中、不要不急の外出は避けた方がよさそうですね。連休明け、もしもの場合に備えて、以前配布の「悪天候等緊急時の登校規定」をご確認ください。

清流

「スタートの　ピストル音で　秋を知る」秋の一大行事として定着していたが、近年では春の開催も多くなっている。運動会は、1878年札幌農学校に始まる。選ばれた生徒だけでなく、みんなで参加するスポーツの祭典は、当時としては画期的だった。その後瞬く間に、日本中に広まり、日本独自の文化になった▼運動会のもつ意味は様々である。団体の中で、協調性を培うことはもちろん、子どものストレス過多が叫ばれる昨今、スポーツによる発散が目的になりつつあるようにも見える。体を思い切り動かし、大きな声を出しての応援合戦は、内側のくすぶるエネルギーを昇華させるのに、最適と言える▼一方、親にとっては、子どもの健やかな成長を見守る、この意味合いが濃い。普段は子どもの頑張りを近くで見られないお父さんが、声を張り上げ、わが子を応援できる、数少ない行事である。そしてもうひとつ、親族を交えて応援をする姿もほほえましい▼そんな光景を今年の運動会で見た。孫のために、あの坂をやっとの思いで駆けつけたおじいちゃんおばあちゃん。そして、ふたりに優しい声掛けをする孫の女生徒。何ともほほえましい。金メダルをあげたい瞬間だった。